

## ライプツィヒの2017年はアートが満載

【ライプツィヒ（ドイツ）／2017年1月】ドイツの文化都市・ライプツィヒの2017年は、素晴らしいアートで幕を開けました。2017年1月28日より、パノメーター絵画館（Panometer Leipzig）では海底の旅が待っています。ここでは著名なパノラマ・アーティスト、ヤデガー・アシシによる『タイタニック（TITANIC）』が人々を史上最も有名な難破船へのご案内します。360度の巨大なスケールを生かしたパノラマ画が、105年前の大惨事のまま大西洋の底に沈む豪華客船を見せてくれます。<http://www.asisi.de>

ライプツィヒ造形美術館（Museum der bildenden Künste）では2017年2月12日から6月18日まで、目くるめく色彩の特別展『Nolde und die Brücke（エミール・ノルデとドイツ表現主義グループ「ブリュッケ」）』が開催されます。偉大なノルデの作品に魅了された表現主義グループ「ブリュッケ（橋）」の若きアーティストには、フリッツ・ブレイル、エーリッヒ・ヘッケル、エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー、カール・シュミット＝ロットルフなどの名が連なります。1世代も前に生きたノルデと若きグループのコラボレーションは1906年から2年近く続き、ドイツ近代美術の先駆けをなしました。同美術館の初めての試みとして、150点の油絵・デッサン・版画などを通し、ドイツ美術史の素晴らしい1章にスポットライトが当てられます。<http://www.mdbk.de>

旧紡績工場シュピネライ（Leipziger Baumwollspinnerei）も現代美術ファンにとっては見逃せません。かつてヨーロッパ大陸最大の紡績工場があった場所に11ヶ所もの大手ギャラリー、100を超えるアーティストのスタジオやアトリエが集まっています。2017年1月14日、4月29日～30日及び9月15日～16日には「ギャラリー・ツアー」が催され、すべてのギャラリー・展示スペースにて新たな作品が公開されます。至近の旧発電所の建物に新たに誕生したアートセンター「クンストクラフトヴェルク（芸術発電所）」（Kunstkraftwerk）にも寄り道する価値があります。ここでは、建築家・画家フリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサーの色彩豊かで生き生きとしたイマーシブな世界がホール中に映し出される『フンデルトヴァッサー・エクスペリエンス（体験型フンデルトヴァッサー）』が公開されています。イタリアのジャンフランコ・ランヌツィの手によるカラフルで活気に満ちた体験型の映像を通し、2017年8月24日までフンデルトヴァッサーの世界にたっぷり浸ることができます。<http://www.kunstkraftwerk-leipzig.com>

2017年はマルティン・ルターがヴィッテンベルク城の教会の扉に「95ヶ条の論題」を掲示してから500年目となります。宗教改革の大きな節目に当たる今年、ライプツィヒは様々な記念行事を開いてこれを祝います。ライプツィヒ市歴史博物館・印刷博物館・造形美術館を筆頭に、市内の博物館・美術館では約12の特別展が行われ、当地および周囲の町における宗教改革者ルターの軌跡に光が当てられます。ルターの活動した地域の中でも最大の都市であるライプツィヒは彼の書物を広めることに大きな役割を果たし、1519年にここで行われたカトリック神学者との「ライプツィヒ討論」ではローマ・カトリック教会との決別を決定づけました。<http://www.luther-in-leipzig.de>

アジアからはトルコ航空がイスタンブール経由でライプツィヒ＝ハレ空港（Flughafen Leipzig/Halle）まで週4便を運航しています。旅行情報や宿泊予約はライプツィヒ観光局公式サイト（<http://www.leipzig.travel>）をご覧ください。